

平成22年度全国高等学校総合体育大会【美ら島沖縄総体2010】
(第78回 日本高等学校選手権水泳競技大会)

水球競技速報用紙

平成22年8月20日(第4日)

会場: ブール

ゲームNo

19

帽子の色 白
学法津田学園高等学校

3

天候: 晴れ

3 - 4位決定戦		
0	-	0
0	-	2
1	-	1
2	-	1
EX.		
-		
-		
P.T.		
-		

青 帽子の色

三重県立四日市中央工業高等学校

4

審判1: 若林 和人
審判2: 岡 弘樹

戦評

3位決定戦は奇しくも三重県同士の対戦となった。白、津田学園は明大中野と鹿児島南を下し、準決勝で延長・PT戦ともつれこんだが惜しくも福岡工業に敗れ3位決定戦へ臨む。過去の戦績は4位が最高であり、対戦相手は東海大会で勝っている相手である以上、なんとしても3位を勝ち取りたいところである。対する青、四日市中央工業は1回戦青森商業、2回戦大谷、3回戦で地元那覇商業を下し、準決勝で山形工業に敗れ3位決定戦へ臨む。四日市中央工業も昭和53年のベスト4が最高戦績で初の3位を勝ち取りたいところである。両チームとも手の内を知り尽くしており、白熱した試合展開が予想される。

1P 予想通りの展開になってきた。手の内を知り尽くしているため両チームとも相手の戦術に合わせ、ポイントゲッターを的確にケアしながら試合を展開している。津田学園は白 今井がカットインや5mシュート、白 中川がミドルシュート、白 泉がカットインから粘り強くシュートを放っているがディフェンスやGKにことごとく阻止され得点にはつながらない。四日市中央工業は青 柿市、青 大野、青 加茂を中心にゴールを狙っている。1:22青 柿市がフローティングで退水を誘発したがパワープレーは惜しくも得点にはならなかった。1ピリオド0-0の同点で終了した。

2P 開始から1ピリオドと同じように一進一退の攻防が続いていたが、ここで四日市中央工業に流れが出てきた、動いたのはやはり青 柿市である。4:34に退水を誘発すると、今度はカットインからボールをもらい相手がアタックしてきたところにタイミングを合わせ技ありのまわしこみ、そこから絶妙なコースへシュートを放ち先制点を奪った。ここで勢いを止めるべく津田学園がタイムアウト。しかし、四日市中央工業がこのタイムアウトのオフェンスに合わせ怒濤のカウンターを繰り出し、残り59秒に青 加茂が貴重な2点差となる得点を決めた。前半が終了し0-2で後半戦へ突入する。

3P 今度は津田学園が動き出した、前半とは違い徹底したプレスディフェンスでオフェンスを広げ、タイミングをずらしながらカウンターを狙う。このプレスに四日市中央工業の動きが止まり6:30白 泉がGKの逆をつくミドルシュートを放ち1点を返した。作戦が功を制し津田学園の猛攻が始まった、白 中川、白 泉、白 増田がカウンターやカットイン、ミドルシュートで次々に四日市中央工業のゴールに襲いかかる。しかし、チャンスを生かすことができず逆に0:45青 加茂が攻防の切替で退水を誘発するとタイムアウト。このパワープレーを青 田中が確実に決め、また2点差とした。1-3で最終ピリオドを迎える。

4P 3ピリオドと同じように津田学園のプレスで四日市中央工業のオフェンスは広がっている。悪いリズムを断ち切りたいときに青 柿市がまたしても動いた。全体が広がりゴール前にできたスペースを素早く動き回りディフェンスを振り切り、そこに、トップからの鋭いパスを受けサイドスローでゴールを揺らす。四日市中央工業にとって大きな3点差となるリードを奪った。津田学園はプレスからのカウンターを出してはいるがシュートがなかなか決まらない。なんとしても追いつきたいところで白 橋本が退水を誘発。パワープレーのリバウンドを白 丸山が押込み2-4となる。しかし、四日市中央工業は残り時間が少なくなるとスローテンポで時間をしっかり使っている。焦る津田学園は最後の執念で残り8秒で白 増田がペナルティを奪い3-4としたが、ここで試合が終了した。

3位決定戦は四日市中央工業が制し、初の3位入賞を果たすことができた。東海大会で負けているだけに喜びは大きいだろう。津田学園は負けはしたものの今大会でみせた名勝負は圧巻であった。国体ではこのインターハイ3位と4位の合同チーム三重県に注目したい。

記録者

坂本 博文